大宮地区小学校の適正配置に係る地元説明会　会議録

１　日　時　　平成３０年１１月２４日（土）　午前１０時～午前１１時３０分

２　場　所　　大宮台自治会館　２階ホール

３　出席者　　６５名程度　（廣瀬大宮地区地域運営委員会会長等）

４　地域の協力者の紹介

大宮地区地域運営委員会会長、大宮地区自治会連絡協議会会長、大宮中学校区青少年育成委員会会長を事務局から紹介した。

５　教育委員会挨拶（伊原企画課長）

本日は大変お忙しい中、多くの地域の皆様にお集まりいただき御礼申し上げる、また、本地元説明会開催にあたり、多くのご協力をいただいた大宮地区地域運営委員会廣瀬会長、大宮台自治会石井会長、大宮中学校区青少年育成委員会前田会長をはじめ、会場をご提供いただいた大宮台自治会館関係者の皆様に心より御礼を申し上げる。

これから大宮地区の学校適正配置について説明をさせていただくが、それに先立って、今回の取り組みの背景などについて、お手元の「第３次千葉市学校適正規模・適正配置実施方針の概要」と併せてご紹介したい。

本市の人口は、現在では９７万７千人を擁する大都市に成長してきた。こうした中で、子どもたちの数は、小学校では昭和５６年度に９万２千人を記録した後、平成３０年５月現在では、約半分の４万７千人まで減少してきた。市内の各学校もこの影響で多くの学校で小規模校化が進んできている。

平成３０年５月現在で、小学校については市内１１１校の中、約３割に当たる３３校が文部科学省が定める１２学級未満の小規模校となっている。そのような中、授業形態等の子どもの学びのスタイルが近年大きく変化している。新しい学習指導要領では、「主体的、対話的で深い学びの推進」が示されている。これまでの授業では、教員の話を座って聞くことが中心であったが、最近では子ども自身が調べたことをクラスで発表するプレゼン形式や、意見を出し合うディスカッション形式が積極的に取り入れられ、今後は大学の入試にもプレゼンやディスカッションが取り入れられていくものと言われている。学びのスタイルが変わってきているなか、一つの学級が１０人以下というように少なくなりすぎると、このような勉強の仕方が難しくなる。

このような問題を解消するため、千葉市では平成１６年度から学校規模の適正化・適正配置に取り組み、今年度４月に新たに「第３次千葉市学校適正規模・適正配置実施方針」を策定した。大宮小、大宮台小での保護者説明会を行い、このたび、大宮地区の地元説明会を行うこととなった。

これまで千葉市は、小学校を１８校から８校に統合し、中学校を６校から３校に統合することで、学校適正配置を進めてきたが、いずれの地域においても、十分に保護者代表や地元代表の方々と議論を重ねてきた。この進め方を引き続き継続していきたい。大宮地区においても、まずは学校や保護者の方々のご意見を伺い、代表の方から統合を早く進めてほしいという要望が聞かれたため、この度この説明会を開く運びとなった。千葉市の学校適正配置では、子どもたちのよりよい教育環境をつくることを目的

に、保護者・地域の方々と協力して取り組んできた。

概要版の資料には、第３次の方針の検討の方法としてＡ、Ｂ、Ｃの３つのパターンを示している。大宮台小と大宮小の統合は、Ｂパターンの小学校の優先的な統合に近い現状と思われるが、両校が統合すると、この地区には統合小学校と大宮中学校の１小１中となる。また、隣接する中学校までは物理的に距離が長いことを勘案すると、将来的にはＣパターンの施設一体型を基本とする小中一貫教育校化による統合も、検討の視野に入ってくるものと思われる。

このあと、大宮地区の学校適正配置についてご説明するが、この地区の特性を十分考慮し、保護者や地域の皆様のご意見や要望を十分聞きしながら進めていきたい。忌憚のない多くのご意見をお願いしたい。

６　教育委員会企画課職員の紹介

７　説明（教育委員会）

（１）学校適正配置実施方針の概要について

（２）大宮地区の詳細と今後の学校適正配置の進め方について

事務局から資料に基づいて、学校適正配置の進め方、大宮地区小中学校の児童生徒数推計、統合小学校の設置場所の想定等について説明した。

〇質疑応答

質問１：資料では、平成３５年度までの児童生徒数の推計値が示されているが、３６年度以降は児童生徒数が増加すると聞いている。推計値を長期間示すべきではないのか。

企画課：児童生徒推計について、３６年度は住民登録に基づいた推計実施が可能であるが、３７年度以降は未出生の児童数を予測する理論値となり、ぶれが大きくなるためお示ししていない。

質問１：３５年度までの数字もこれまでブレは生じてきたのであろう。あくまで推計値ということで理解はしているが、増える要因もあるということを示したうえで説明を行ってほしい。減少ありきで説明が進められるのは如何なものかと思う。

企画課：一般的には、現状住民票登録のある３６年度までの間についてお示しをしている。３７年度以降は学区内の女性人口や女性が出産した場合どれくらい児童数が発生するのかという、あくまでも理論的なものである。急激に学級数が増加するということはないと算出している。大宮小に関しては大宮台小よりは、児童数の減少が小さいということは見受けられる。

質問２：統合校がいずれの位置に設置されるにしても、通学距離が延びることになり、新しいスクールゾーンが設定されることになる。通学路の安全確保を行う計画はあるのか。

企画課：仮の通学路が決定したら、学校職員や教育委員会で合同点検を行い、安全確認をして対応していきたい。通学距離の延長は考えられるので、地元代表協議会等の場で様々なご意見やご心配の点を挙げていただき、関係機関へ対応を要望する等、対策を検討していきたいと考えている。

質問３：通学区域の距離について、佐和町から大宮台小までの距離は資料に示されていないが如何

ほどか。

企画課：車両での確認にはなるが、概ね２ｋｍ強程度であった。

質問３：通学距離について、元々多部田町は白井小学区であったと思うが、学区の範囲が分かりにくい。元々、平山町は平山小学区のはずである、学区の考え方はどのようなものなのか。

企画課：千葉市では学区制を採用している。原則として、学区の子どもは学区の学校に通学することが原則となっている。例年１月過ぎに、新しい新入生に通学する学校を指定する入学通知書を教育委員会から発行している。ご指摘のように、白井小や平山小学区の児童が大宮地区に通学しているのは、昭和６３年に文科省が学区の弾力化として規則改正を行ったことによる、学区制の学校でも、距離が極端に長く、指定校より隣接する学区の方が学校が近い場合や、放課後の子どもが帰る場所が子どもルームだったり、親戚の家だったりする場合などは、学区外申請に基づき、学区外通学が認められる。学区外申請の手続きに従って通学しているものと思われる。

質問３：小学校の統合を考えるだけではなく、元々の学区を見直すという案はあるのか。

企画課：これまで統合の議論をしてきた地区のなかで、ご指摘の点は寄せられることが多い。もっとも近いところでは、千城台西小と千城台北小の統合が決定されたばかりだが、西小の４割の児童が学区外から通学している。地域とも相談はしているが、なるべく統合した際も同じ学校に通えるように配慮しながら、統合を進めてきた。統合により通学距離が延びることから、本来の学区に戻りたいという希望は当然認められるが、学区外申請も継続して認められる様に、統合の準備を進めているところである。

質問４：千城小も現状複式学級で運営されている。今後も複式学級が続いていく見通しであることから、千城小も併せた３校を対象に統合の議論を進めながら、通学負担を緩和するためのスクールバスの利用検討はできないものか。低学年の児童が３～４ｋｍ徒歩で通学するのはかなり負担が大きい。保護者も心配して、学校まで送迎するようになってしまうと思う。郊外の都市ではスクールバスを利用している自治体も多いと思うが、千葉市ではどうなのか。

企画課：千城小については、教育委員会としても保護者と対話を行っている。千城小については、様子を見たいという意見が強く、今回は大宮小と大宮台小の統合の枠組みをお示ししたところである。スクールバスについては、調査を行っており、近隣の船橋市や八千代市、市原市を訪問している。４ｋｍ以上であれば、文科省からも補助制度があり、運用しやすいが、大宮地区では４ｋｍ以内に収まる。いろいろな課題があるが、検討はしていきたい。

　統合の議論のなかで、スクールバスについては話題になることが多い。千城台地区や花見川地区においても提案があった。ご指摘のとおり、１・２年生と５・６年生ではだいぶ成長の度合いが異なる。４ｋｍという規定を文科省が定めているが、子どもたちの負担が大きいことは分かる。教育委員会としても、大宮小と大宮台小の統合は距離が遠くなるので、他市の状況について調査を行っている。最終的にはスクールバスを如何にするかについて、統合校の設置場所検討と併せて地元代表協議会に提起し、地域や保護者の皆様に相談して決定していきたい。もっとも大きな課題としては、運行時間の設定がかなり限定されることにあると考えている。幼稚園や特別支援学校はバスを運行しているが、開園・開校するのは９時からである。学校の場合は８時に始まるため、どのように調整していくかとい

うところである。実際に千葉市では、４ｋｍ近い通学距離を抱える学校が多数ある。更科小や現時点での大宮台小など、ほとんどの場合は保護者が送迎を行っている。千城小も現在で保護者の送迎がある。スクールバスではバスが早い時間帯に出発する必要があり、ルートをすべて通行すると１～１時間半くらいの所要時間となる場合もある。こういった資料をきちんと示して、皆様と一緒に考えていきたい。

質問５：市のホームページを閲覧すると、市内の学校適正配置について、海浜ニュータウンや花見川地区について順調に進んでいるように見える。大宮地区については、それらの地区と異なり、戸建住宅が多く、集合住宅が少ないという点も十分考慮してほしい。戸建の場合は、定住が進む傾向にある。小学校が地域にないと、若い世代の転入を見込むことができない。学校無くしては町全体としての活性を見込むことができず、さらに輪をかけて高齢化が進み衰退していき、結果として公共施設や商業施設の撤退ということにつながる恐れがある。できるだけ学校適正配置については慎重に対応してほしい。大宮小・大宮台小は優先度Ｉとして位置付けられているが、教育委員会として机上の論理だけでなく、地域全体のまちづくりとして検討を進めてほしい。また、要望書の提出ということがあったが、要望書は自治会が同意して提出するものなのか、どのような位置付になるのか。

企画課：いただいたご意見は今後の議論での参考とさせていただきたい。学校適正配置では、魅力ある学校をつくることで、もう一度子どもたちを新しい統合校に呼び込んで、地域と学校が一緒に発展してほしいという思いで進めている。花見川地区で統合小学校が開校して間もないが、運動会では子どもたちの行事が活発になって、地域の方々も喜んでいただいている。幸町地区でも子どもたちの声が増えて元気づいたとの声がある。地域の皆様と統合校を盛り上げていかなければならないと考えている。

　学校の設置や統合という事項については、法令上は教育委員会が決定することになっている。千葉市では、決定する際に一方的に決めるのではなく、統合後も学校は地域に支えられるということから、地域からの統合の要望を基に、教育委員会会議で決定し、統合することとしている。要望書の提出はいろいろなパターンがあり、保護者代表であったり自治会代表であったり、両者で組織される地元代表協議会である場合もある。

質問６：統合が決まった場合の最短のタイムスケジュールのイメージがあれば示してほしい。

企画課：皆様の賛同が得られた場合は、地元代表協議会を設立し、平成３３年度の統合校開校が最短と考えている。この場合は３１年度の８月までに統合に関する要望書を提出いただくものと想定している。

質問７：スクールバスについて、既存の民間事業による路線となるのか、新しい路線を検討するのか。千城小を含めた統合議論を行っていく考えはあるのか。設置場所の資料にある学校の設置面積について疑問がある。学校要覧から引用したとのことだが、再度測量を実施し精査してほしい。そうでないと、どちらが大きいのか誤解を招く。跡施設の利活用の話について、大宮小学校は市指定を受けて避難場所となっている。大宮台小が統合校の設置場所になった場合、既存の避難場所はどうなるのか。大宮台小まで避難することになるのか。地域として高齢化が進んでおり、自宅近くの避難場所確保が望まれるので、避難所の視点を含めて検討してほ

しい。

企画課：千城小については、現状複式学級があり、大宮小・大宮台小と同じように、まず保護者代表と対話する機会を設けた。保護者代表の段階ではあるが、統合の必要性は感じているが、もう少し慎重に考えたいという意向があった。今後も話し合いの場を持つということで現在では進めている。３校を同時に統合ということも考えられるが、より早く統合を進めてほしいという大宮地区の保護者意見があったため、教育委員会としては、まず初めに大宮小と大宮台小の統合に関して十分議論していただき、改めて千城小に入っていきたいと考えている。

バスについては、運用はいろいろ考えられる。近隣自治体に調査するだけでなく、地域のバス会社に意見を聴取している、公費での運用が多くの自治体の例であり、公費での運用を検討している。

学校敷地面積については、目視による感覚以外にも、斜面地や森林地帯等も含まれる場合がある。数値については、学校施設課にも確認は行ったが、改めて確認しておきたい。

避難所については、地域にとって大きな論点であり、跡地活用の検討ということになる。例えば、避難所として使えるよう、体育館だけ残して、校庭は他の用途に活用している事例もある。完全に跡地を売却したり、他用途へ転用する場合は、代替施設を市が指定している。具体的には跡地活用検討のなかでしっかり議論されるべきものと考えている。

質問８：佐和町、平山町、東山科町は大宮小が統合校になった場合、通学距離が遠くなる。今後５、６年間で児童数がどのように変化していくのかという資料がない。学校の面積や人数の推移の数値資料を見ると、大宮中を中心に学校の配置をまとめていきたいという意図的なものが感じられるが、そのようなことはないか。

企画課：各地区からの児童数の現状については、各学校への確認を踏まえてお示ししている。中学校をどうするか示してほしいとのご意見を地域からもいただいており、今後大宮中の生徒数が減る見込みではあるが、教育委員会としては大宮小となるパターン、大宮台小となるパターンのそれぞれを想定し、いずれの場合のメリット等を提示し、意見を伺っていきたいと考えている。

質問９：３５年度までの児童数推計について、３５年度以降単純にこのまま推移すると、事実上大宮台小程度に収まると思う。魅力ある学校づくりという話があったが、統合後結果として児童数が増加するという見込みを持って統合を計画するのかどうか。

企画課：これまでの統合校は、統合により１２学級になる地域であった。一つの魅力として、クラス替えができるというメリットがあった。大宮地区小学校の場合は、統合しても単学級のままであると考えらえる。ただし、ご説明のとおり、１学級あたりの人数が増えることで学習形態のバリエーションが出せることになる。それだけではなく、将来的には、大宮中が３学級となる推計結果が出ており、今後は大宮中を含めた地域一体の学校づくりをすることで魅力を高めていきたいが、まずは小学校の統合に着手し、中学校が３学級になることを視野に入れた議論を進めていきたい。

質問９：例えば平成４０年度に、小学校の規模が大宮台小と同規模になる。この場合また統合校をさらに別の学校と統合しなければならないのか。どのように見込みをもっているのか。児童数が減っていくことに対して、学校統合の手段で検討するだけではなく、児童数そのものを増

やすことはできないのか、考えを聞きたい。

企画課：児童数を増やすためには、学校統合が一つの方策であると考えている。他に通学区域を調整する方法があるが、学区調整をすると学区を広げなければならない。また、学区調整の相手校も児童数が減るということになる。教育委員会として、統合ができる距離関係にある学校については、統合により少しでも児童数を増やして活気を取り戻していくという方法を進めている。大宮地区に関しては、大宮小・大宮台小の他に千城小が存在している。その他は距離が遠すぎて、統合は現実的ではない。大宮中学校も同様である。将来的には１小１中の形態になっていくものと考えている。

質問 10：千城小はもう少し時間がほしいとの意向があったとのことだが、今日の質疑を見るとやはり一緒に議論をしていくべきではないか。大宮台小に決まった場合は、離島であれば複式学級があるのは分かるが、市内において複式学級で６年後も児童数が増える見通しがないなかで、千城小を停滞させて、大宮小と大宮台小だけ進めるのはおかしいと思うが、どうか。

企画課：千城小については、全く着手しないのではない。先日も学校を訪問してきた。今後は学校内でアンケートを実施し、保護者の声を聴くなど、今後も呼びかけていきたい。教育委員会としても、強制的に進めることになると、学校の保護者と地域の方々との間に様々な課題が生じることになる。適正配置の重要性や課題を訴えていきたい。

（３）地元代表協議会委員の選任について

事務局から、資料のとおりの委員構成で地元代表協議会を設置する案を提示し、了承を得た。

〇質疑応答

意見：今回の説明では、統合を進めることありきであるように感じられたが、統合には反対である。新しい協議会委員が反対の意見もあるということを考慮をして協議してもらえるのかどうか。拙速に詳細な議論を進めず、統合を見送るという視点も含めて検討してほしい。子どもへの教育について、小さな学校規模でもしっかり教育は受けられると考える。適正な規模というもの自体も改めて検討すべきだと思う。何を議論すべきかを明確にして協議会を設置してほしい。

８　地元代表協議会委員代表挨拶（大宮地区地域運営委員会　廣瀬会長）

大役を仰せつかって無事に果たせるかと考えている。この協議会の目的は、子どもたちの教育環境がいかにあるべきか、いかに良くすべきか、それに対して、どのように考えなければいけないかということである。その２つを両立させることが、地元の永続につながるのであろう。この２つを上手く両立させる案があるかどうか。統合だけを目標にした会議にならないようにというご指摘をいただいた。場合によっては、小規模校でもしっかり教育が受けられるという結論になるのであれば、それでも構わないとは考える。統合に向けての一方的な協議会にするつもりはない。広く考えて皆さんの知恵を拝借しながら進めたい。委員もご紹介があったが、それぞれの立場でそれぞれの知識、実情を知っている方がそろっている。その方々に十分ご活躍をいただき、出来る限り多くの方が納得できるような結論を出せる協議会にしていきたい。今後ともご協力の程、よろしくお願いしたい。

９　諸連絡（教育委員会）

・今後は廣瀬会長を中心に、承認いただいた地元代表協議会の委員とで大宮地区の適正配置の方向性を協議していきたい。

・児童生徒数の減小が予想されるなか、これからの大宮地区の小中学校の規模・配置についてどうあるべきか協議を進めることについてご理解をいただきたい。今後も要請があれば、説明等にも伺うのでよろしくお願いしたい。